

# 特集：インターネット倫理教育

## オンラインでの匿名性と倫理観

吉田 等明・村上 武・和崎 宏・五味 壮平

抄録

オンラインでの活動に必要な倫理観について、大学や地域 SNS の中でアンケート調査を行った結果を報告する。また、匿名性と個人情報保護という観点から、インターネットと信頼できるネットワークの違いについて議論する。その結果から、ネットワーク社会で倫理観を支えるための要因を推定するとともに、現状で不足している事項について検討し、今後のインターネット倫理教育への提言とする。

Key Words 情報倫理, 匿名性, 地域 SNS, プロフ

---

### Education of Internet Ethics – Online Anonymity and View of Ethics

Hitoaki YOSHIDA, Takeshi MURAKAMI, Hiroshi WASAKI, and Sohei GOMI

#### Abstract

Questionnaire surveys on Information Ethics in Iwate University and regional SNS have been analyzed. The difference between the Internet and a reliable network is discussed from the point of view of anonymity and the protection of personal data. According to the result, we make a proposal about basic factors of Internet Ethics, and warn against threats on present networks.

**Keywords: information ethics, anonymity, regional SNS**

---

連絡先：岩手大学総合情報処理センター 吉田等明 hitoaki@iwate-u.ac.jp

Contact to: Hitoaki YOSHIDA, Super Computing and Information Sciences Center, Iwate University

E-mail: hitoaki@iwate-u.ac.jp

## 1 はじめに

ネット社会では、盛んに倫理の荒廃や混乱が取りざたされ、大きな社会問題となっている。そんなネット社会を生きるための「情報モラル」が、新学習指導要領に盛り込まれ、中・高校に対して情報教育が課せられている。しかし、この和製の造語である「情報モラル」には、明確な定義が無い<sup>1)</sup>。一方、情報倫理は元々、Information Ethics の訳語であるが、決して一義的に使われてはいない。高等教育機関で用いられている教科書「情報倫理概論」<sup>2)</sup>によれば、情報倫理は、「情報化社会において、われわれが社会生活を営む上で、他人の権利との衝突を避けるべく、各個人が最低限守るルール」と定義されている。この定義はトラブル解決のための対策のような印象を受ける。このように、しばしば情報倫理は、人間性を

問題にするポジティブな倫理ではなく、行為を問題にするネガティブな倫理として議論されている。情報の欠点や影の面だけを教育するような倫理教育は、いたずらに警戒心を煽る危険がある。

これに対して、「良き生」のためのネットワーク活用の為に、自ら進んで、喜んで行うポジティブな倫理を教育するのが、倫理的には理想である。その為には、理想的な情報活用の素晴らしさを知り、自らが進んでルール作りをしていく姿勢を 教えることが重要と考えられる。

さて、日本人の倫理観の基本となる共通テキストを探そうとしても、なかなか見出すことはできない。そこで、ここでは一つの仮説として、「近所の目」とか「世間の目」といった、「誰かに見られているという意識」がうまく働いて倫理観が機能していた、と考えて議論を進めていきたい。

逆に現代では、大都市化が進むにつれて、個人主義的な風潮が強まり、誰かに見られているという意識が希薄になって来ている傾向があると思われる。さらにインターネット社会では、匿名性によってこの傾向が強まっていると考えられる。しかし、個人情報の保護や迷惑行為からの自己防衛等の観点から、匿名性はインターネット社会では、必要なものと言われている。後述する今回のアンケート調査結果でも、その点は明白に現れている。

匿名性や個人情報保護の状態を程よく保ちつつ、倫理観の問題に対処する2つの方法が考えられる。

誰かに見られているという意識を持たせる  
匿名性を弱める

については、いくつかの方法が考えられるが、実社会では監視カメラによる防犯が、効果を挙げている事例がある<sup>3)</sup>。これは管理者による監視の目であり、犯罪多発地帯での利用はやむを得ないとしても、できれば避けたい方法である。

「近所の目」や「世間の目」のようなもっと緩やかな、温かみを持った目からポジティブな倫理意識が生まれにくいものだろうか。このような理想に近い状態が、発展著しい地域 SNS<sup>4)</sup>で一部実現されているという仮説の元、本研究では、地域 SNS のユーザに対して情報倫理に関するアンケート調査を行った。またの匿名性を弱めるということについては、登録には招待制を取り、登録時に実名登録するという SNS で良く用いられている方法の効果について議論する。一方インターネットでは、不正行為や違法行為による、さまざまな危険も存在する。例えば、後述するようなプロフでは、子どもたちが状況を良く理解せぬままに、個人情報を過度に公開してしまっているケースも出ている。教育の場合あるいは地域の活動の場としては、信頼できるネットワーク環境の構築が必要不可欠ではあるが、その外側にあるインターネットの脅威を教育しておく必要がある。

本論文では、情報倫理の意識を、大学の新生や地域 SNS ユーザ対象のアンケートから分析して、理想的な状態を考え、比較から現状で欠けている点について考察し、必要な教育内容は何かという問題について議論する。また、地域のボランティア的な研究会活動の成果や、サイバー犯罪を扱う警察との連携についても紹介する。

## 2. 岩手大学の新生の情報倫理意識調査<sup>5)</sup>

これからの情報倫理教育で、何を重点的に教えるべきかを考えるために、岩手大学新生に対して行って

きたアンケート調査の結果について述べる。

### 2.1 調査方法

- ・ サンプルング：全学共通教育科目である「情報基礎の授業を受講した学生（農学部1年次の学生を対象として必修で開講。過年度生を含む）
- ・ 調査期間：2000-2004年度（2002年をのぞく）
- ・ サンプル数：設問毎に  $n$  で表示
- ・ 調査方法：個人名記名式対面法（授業時に、詳しい説明を行い、アンケート形式で実施）

### 2.2 調査結果

以下の行動について、良いと思うなら Yes で、いけないと思うなら No で答えさせた。ここでは、調査項目のうち代表的なもののみを掲載する

問1：むかつく奴がいたので、ホームページに文句を書いてやった。

Table 1 問1の回答の割合。調査年全体にわたる平均値

Yes	No	その他
9%	91%	0%

他人を誹謗中傷する文の公開の是非を問う設問で、正解は No,  $n=838$  である。

Table 2 問1の回答の割合。Yesの割合の年変化

調査年度	2000	2001	2003	2004
Yes (%)	16.5	11.2	4.9	3.6

問2：他人のホームページの内容（画像や文章）をコピーして使用する場合、そのまま使うと著作権違反になるので、多少変えてから使用する。

Table 3 問2の回答。調査年全体にわたる平均値

Yes	No	その他
29%	70%	1%

リソースの利用に関する意識を問う設問で、正解は No,  $n=838$  である。

Table 4 問2の回答。Yesの割合の年変化

調査年度	2000	2001	2003	2004
Yes (%)	38.3	30.9	24.9	21.8

問3：市販ソフトウェアのコピーは、友人間では許される。

Table 5 問3の回答。調査年全体にわたる平均値

Yes	No	その他
16%	84%	0%

著作権に関する意識を問う設問で、正解は No,  $n=838$  である。

Table 6 問3の回答。Yesの割合の年変化

調査年度	2000	2001	2003	2004
Yes (%)	23.5	12.6	21.8	9.1

問4. 電子メールの添付ファイルは、コンピュータウイルスが入っている危険があるので、まずウイルスチェックをかけてから見るようにしている。

Table 7 問4の回答。調査年全体にわたる平均値

Yes	No	その他
91%	9%	0%

コンピュータウイルスに関する意識を問う設問で、正解はYes, n=668 である。

Table 8 問4の回答。Yesの割合の年変化

調査年度	2000	2001	2003	2004
Yes (%)	未調査	85.2	92.0	94.5

問5. ユーザ名とパスワードは、忘れないように紙に書き止め、見やすい所に張っておくのが良い。

Table 9 問5の回答。調査年全体にわたる平均値

Yes	No	その他
5%	95%	0%

パスワードの重要性に関する意識を問う設問で、正解はNo, n=838 である。

Table 10 問5の回答。Yesの割合の年変化

調査年度	2000	2001	2003	2004
Yes (%)	9.4	1.8	4.4	5.9

問1, 問2, 問4の正解率は、年が経つにつれて上がっている。これは、中学高校での情報の授業の成果と考えられる。加えてTVや新聞で、マスコミに取り上げられる機会が増えている点も、向上につながっている一因と思われる。それでも尚、教育が必要なレベルである。

一方、問3の不正コピーに対する意識、問4のパスワードの重要性に対する意識は、年々向上しているとは言えない。この2つについては、重点的に指導する必要があることが示唆された。

### 3. 地域 SNS での情報倫理意識調査

ひよこむ, もりおか地域 SNS などの地域 SNS ユーザに対して, e コミュニティのより良い運用等を目的として, 2008年1月にアンケート調査を行った。

#### 3.1 調査方法

- ・ サンプルング: 招待制<sup>6)</sup>, 実名登録制, ニックネーム利用を行っている地域 SNS のユーザ
- ・ 調査期間: 2008年 1月
- ・ サンプル数(回答数): 89
- ・ 調査方法: 個人名無記名式のアンケートで実施
- ・ 回答形式: 当てはまる項目をマークすると共に, コメントを記入。

#### 3.2 調査結果

アンケートの回答数は、総計 89, 男性 60, 女性 23, 無回答 6 であった。年代別の回答数を Table 6 に示した。Fig.6-11 にその設問と集計結果を示す。

Table 11 年代別回答数

20代	30代	40代	50代	60代以上
8	20	24	23	11

Fig.1 の結果を見てみると、殆どのユーザが、インターネットに比較して地域 SNS が、信頼できるということを実感していることが分かる。また、男女の差を検討してみると、女性の方が若干ではあるが、慎重な意見を持っていると思われる。地域 SNS が信頼できるとした理由を見ると、主に以下のような意見であった。

- (1) 実名登録制, 招待制, 後見人制<sup>7)</sup>による信頼感
- (2) 参加者が、顔の見える地域の中の人が多い
- (3) 適切に管理されている
- (4) 情報公開範囲を制限できる

一方、大差ないと答えた人の理由は、地域 SNS の参加者数が多くなり過ぎると、知らない人が増えることによる信頼性の低下を指摘していた。信頼性という点において 地域 SNS には最適サイズが存在すると思われる。すなわち大きすぎる SNS はインターネットと、変わりなくなってくるのである。この最適サイズや、最適サイズを決めるパラメータを求めることは、今後の研究の課題である。最適サイズについては、現行の地域 SNS のサイズから判断して、概ね数千人、多くて1~2万人程度と予想される。

Fig.2 に示すように、インターネットでの活動の際には 匿名性が必要だという意見が 64%と多数を占めた。理由を見ると、ストーキング等の犯罪が起きているため、送信者側のプライバシー、個人情報保護、セキュリティ面で匿名のほうが良い。あるいは、公的な立場を離れて意見表明したいため、という意見もあった。

しかし、匿名性を悪用する行為には断固反対するとい

う意見がみられた。匿名性、個人情報保護、倫理観の絶妙なバランスを保っている「信頼できるネットワーク」の必要性が改めて浮き彫りになった。

招待制や実名登録を実施している地域 SNS では、Fig.3 に示すように、信頼感を醸成しているようである。また実名がわかるのは管理者のみで、一般ユーザはニックネームでの活動が許されていることが、個人情報保護に役立っているものと考えられる。まあ良いと答えた回答者は、改善の余地があることも指摘している。現状では理想に近いとしながらも、半分近くの回答者は、これを完成形とは考えていないようである。その理由の一つ

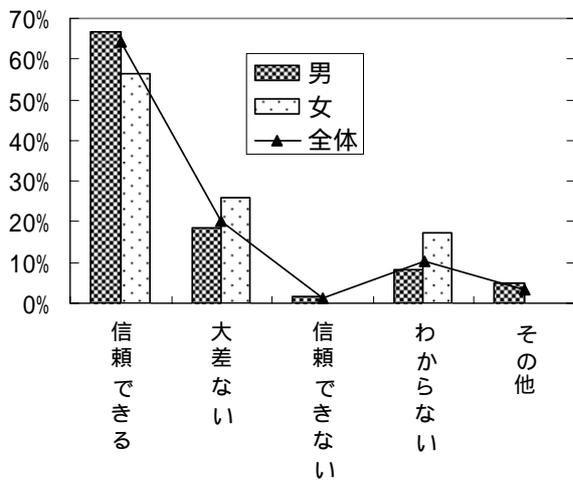


Fig. 1 信頼性という点において、地域 SNS と、一般のインターネットの違いを感じますか？

選択肢

- (1)信頼できる
- (2)どちらも大差ない
- (3)未だ使い始めたばかりで分からない
- (4)信頼できない
- (5)その他

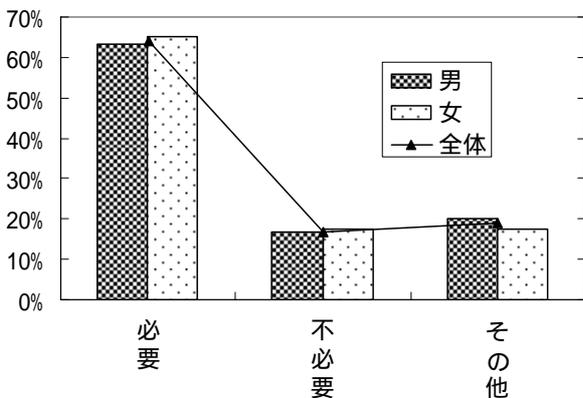


Fig. 2 匿名性は、インターネットでの活動の際には必要としますか？

選択肢

- (1)匿名性も必要である
- (2)匿名性は不要である
- (3)その他

一つは、メンバーの数が膨大になると、実名登録の際に正直に自分の情報を登録しているか確認が難しくなる、という点である。これは、管理する側で工夫しなければならない課題であろう。また、ニックネームを使用しているため、従来からの知人を探しにくいという欠点を指摘する意見もあった。

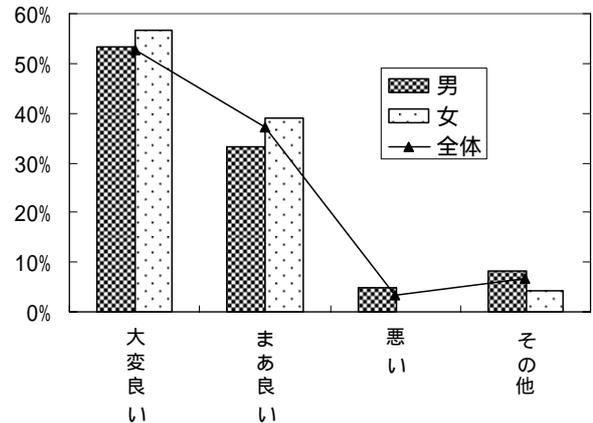


Fig. 3 地域 SNS での実名登録、ニックネーム活動について

- 選択肢 (1)大変良いと思う
- (2)まあ良いのでは
- (3)悪いと思う
- (4)その他

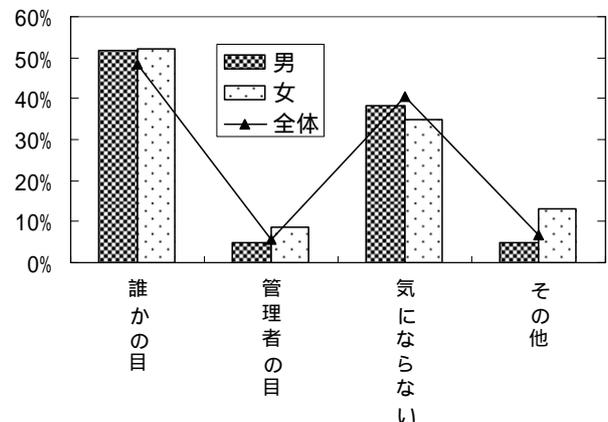


Fig. 4 地域 SNS で活動している時、他のユーザの目は気になりますか？

選択肢

- (1)誰かに見られている
- (2)管理者に見られている
- (3)気にならない
- (4)その他

さて、誰かあるいは管理者に見られているという意識を持つ人が多いことが、Fig.4 から明らかである。また、「人目を意識することによって、軽率なことはできないと気が引き締まる」と答えた人が大勢を占めた。信頼性の向上につながっているという意見も多かった。ただし、

管理者の目を意識している人は少なく、管理されているという意識を反映した意見は殆ど無かった。明らかに監視カメラに相当する監視の目とは違っている。おそらく、従来の地域社会と同じような、暖かい仲間の目が信頼性を作り出し、かつ活動し易い理想に近い環境を作り出しているものと考えられる。

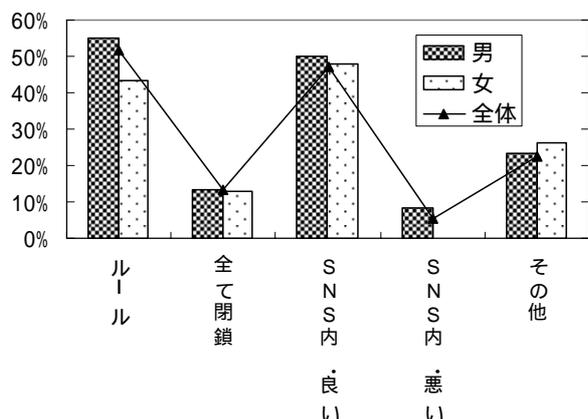


Fig.5 出会い系サイトについてどう思われますか？

選択肢（複数回答可）

- (1) 年齢制限など、違法性がないようにルールがしっかりしていれば良い。
- (2) 出会い系サイトは、すべて閉鎖した方が良い。
- (3) 地域SNSが男女の出会いの場となっても良いか？（良い・いけない）
- (4) その他

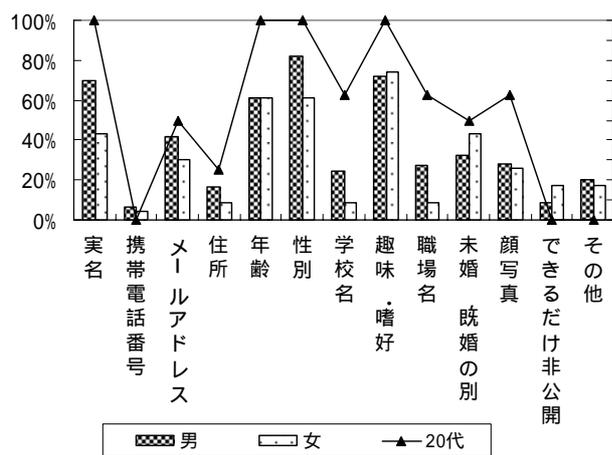


Fig.6 地域SNSで公開しても良い個人の情報は、どの範囲だと思いますか？ 一般的な20歳以上のユーザーを想定してお答えください。（複数回答可）

出会い系サイトについては、援助交際などを目的とした違法な出会い系サイトが社会問題となっているが、一

方では出会いが少ない現在の社会にとっては、必要だという意見も根強い。Fig.5の結果を見ると、しっかりとルール作りが行われていれば良いという意見が過半数を占めた。ルールとは、年齢制限を厳格に行うことや既婚・未婚の別を明かすことなどが挙げられている。また女性の方が、やや慎重な意見が多いように見える。

地域SNS内については、出会い自体が目的にならなければ、自然な交流が男女の出会いになることには賛成の意見が多かった。また積極的に出会いを作っていくべきとする意見もいくつかあった。

個人情報やプライバシー保護の意識を調べるために、地域SNS内で公開しても良い、と思われる情報を挙げてもらったのが、Fig.6である。ここで棒グラフは、全年代に渡る集計値である。年齢別にみると、20代の回答者が特徴的であったので、その値を折れ線グラフで示してある。自らの情報を公開することに対して、抵抗感が弱いことが分かる。これについては、また後述する。

全体を通じて、男女間の格差が小さかったことは予想外で、ほぼ同じ意識を持っていることを示唆している。

#### 4. ボランティア的な倫理教育への取り組み

我々は、平成17年より岩手県盛岡市を中心にして、地域のボランティアを募り、子どもをネット犯罪等から守ろうと言う趣旨でSPERng研究会 isac部会を立ち上げ、教育や啓蒙活動を行ってきている<sup>8)</sup>。岩手県警察サイバー犯罪対策室からも、情報や資料の提供を受けている<sup>9)</sup>。提供された啓蒙用のビデオや資料は、研究会内で回覧するなどして利用し、また大学での情報基礎教育の教材として活用している。法律上の問題に結びつきやすいものとして、指摘されたことは、

- インターネットオークションに関わる問題
- 著作物の違法コピーの問題
- ネット上での誹謗中傷記事の書き込み問題

特に、ゲーム感覚でこれらの行為を行って加害者になるケースがあるので、倫理教育の中で注意しなければならない。「2. 岩手大学の新生の情報倫理意識調査」でも、この意識は充分ではなく、新生生に対する教育が重要である。また、については大学のネットワークでは一般に禁止されていると思われるが、自宅で利用する場合の注意を行う必要がある。

さて、サイバー犯罪対策室から注意喚起を受けた中で、プロフの問題を取り上げてみたい<sup>10)</sup>。プロフとは、Web上で自分のプロフィール（自己紹介）を作成して公開するサービスで中高生に人気がある。プロフの多くは無料

で、携帯から容易にアクセスでき、出会い系サイトとして利用されることもある。中高生が良く分からないままに、個人情報プロフで公開してしまうケースがあり、それが原因で嫌がらせ電話やストーカーまがいの行為に悩まされるケースが増えているという。インターネットの場合、「いったん公開された情報は、二度と取り消すことができない」ということを理解させなければならない。「個人情報を公開する事の意味や怖さを理解させる教育」が必要であることを示す例である。前述した Fig.11 における 20 歳代の意識も、実名を出すことに全く抵抗が無いなど、同様な傾向を反映するものと考えられる。大学教育においても、個人情報やプライバシー保護の重要性を教育する必要があることが示唆される。

この研究会で作成した資料は、インターネットを通じて自由にダウンロードして活用できるようにしてある。実際に岩手県内ばかりでなく、他県でも多数印刷されて、配布された実績がある。保護者と子どもと一緒に学び、安全に楽しく使うための「約束」を、一緒に話し合っ決めていく構成になっている。また解説してある内容は、情報セキュリティの業界用語を極力避けて解説してある点が特徴である。また、情報倫理を光と影の二面で捕らえ、必ず情報の良い面と悪い面を、組みにして啓蒙するスタイルを取っている。是非、倫理教育に活用していただきたい。

## 5. 結論

匿名性を弱めるとともに、個人情報やプライバシーを保護する地域 SNS での取り組みは、信頼できるネットワーク構築のための重要な一歩である。インターネット倫理教育では、このような信頼できるネットワークをあるべき姿として取り上げるとともに、その比較からインターネットに潜む様々な危険を認識できるように、倫理教育を行うべきであることを提言とする。

## 謝辞

アンケートにご協力いただいた地域 SNS のメンバーの方々に深く感謝いたします。

## 注と参考文献

- [1] 越智貢, 土屋俊, 水谷雅彦, 「情報倫理学 - 電子ネットワーク社会のエチカ」, ナカニシヤ出版, 2000.
- [2] 「情報倫理概論」, 私立大学情報教育協会 編, <<http://juce.shijokyo.or.jp/LINK/report/rinri/mokuji.htm>>
- [3] 黒澤睦, 「ビデオカメラによる監視と犯罪捜査」, 明治大学社会科学研究所紀要, 第 41 巻, 第 2 号, 2003 年, pp.299-313.
- [4] SNS (Social Networking Service) とは, コミュニティ型 Web サービスの一つであり, 世界中で爆発的にユーザー数が伸びている。日本では mixi が代表格。地域 SNS は, 地域の活性化等を目的として, 日本各地の自治体等で運用を始めた SNS で, 地域密着型である点が特徴である。
- [5] 結果の一部は, 以下の研究集会で発表を行なっている。吉田等明, 原 道宏, 「岩手大学でのセキュリティ教育と新入生のセキュリティ意識」, 平成 16 年度情報処理教育研究集会, 2004, 12-05.
- [6] ここでいう「招待制」とは, 完全招待制あるいはそれに準ずるものを指す。完全招待制とは, 招待制と自由登録制を切り替えて運営しているサイトがあったり, 一部招待のない状態の利用者がいたりする場合があったりするので, すべてのユーザが招待を経ているという意味で「完全招待」としている。
- [7] 「後見人制」とは, 招待した人が, 被招待者の行動にある程度責任を持つという制度。ひよこむなどで実施中である。
- [8] isac 部会  
<<http://kilkhorr.cc.iwate-u.ac.jp/sperng/isac/>>  
(1) 子ども向け啓蒙資料及び家庭向け啓蒙資料  
<<http://kilkhorr.cc.iwate-u.ac.jp/sperng/isac/publish1.htm>>  
(2) 日めくりカレンダー「光と影の名(迷)言集」  
<<http://kilkhorr.cc.iwate-u.ac.jp/sperng/isac/himekuri1.htm>>
- [9] 岩手県警察サイバー犯罪対策室  
<<http://www.iwate-kenkei.morioka.iwate.jp/>>
- [10] 子どもとネット, No.1-5, 読売新聞岩手版, 2007 年.

## 著者略歴

### 吉田等明 (よしだひとあき)

現在の所属: 岩手大学総合情報処理センター  
専門分野: 情報工学, 地域情報化, 計算機化学  
主な著書: 情報リテラシー (技報堂出版),  
情報基礎 (学術図書出版)

### 村上武 (むらかみたけし)

現在の所属: 岩手大学技術部工学系技術室  
専門分野: 情報工学, 非破壊検査

### 和崎宏 (わさきひろし)

現在の所属: 兵庫県立大学大学院  
専門分野: 地域情報化  
主な著書: 地域 SNS 最前線 (アスキー),  
地域をはぐむネットワーク (昭和堂)

### 五味壮平 (ごみそうへい)

現在の所属: 岩手大学人文社会科学部  
専門分野: 情報学  
主な著書: 情報基礎 (学術図書出版),  
自己組織化と進化の論理 (翻訳, ちくま書房)